

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1471900868
法人名	株式会社 小林留次郎商店
事業所名	グループホーム チェリーホーム
訪問調査日	令和8年1月15日
評価確定日	令和8年2月5日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は23項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和7年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471900868	事業の開始年月日	平成11年10月1日	
		指定年月日	平成12年3月28日	
法人名	株式会社 小林留次郎商店			
事業所名	グループホーム チェリーホーム			
所在地	(239-0802) 横須賀市馬堀町2-13-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	8名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	令和8年1月6日	評価結果 市町村受理日	令和8年2月9日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方が、重度になられても安心して入浴できる入浴設備が設置されており、シャワー浴とは違って、湯船でゆっくり身体を温めることが出来、心身共にリラックスする事が出来る。ホームで機能訓練の一環（上肢筋力強化）としてポッチャゲームを廊下を使って行っている。次年度にもポッチャ大会があるのでホームから選抜されたご利用者様が参加する予定になっているので、ホームのご利用者様とスタッフで、楽しみながら応援しています。健康に重点をおいたリクリエーションを管理者はじめスタッフの協力の基に毎日元気に励んでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和8年1月15日	評価機関 評価決定日	令和8年2月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、株式会社小林留次郎商店の経営です。同法人は横須賀市と三浦市にグループホーム3ヶ所、デイサービスセンター、リハビリデイサービス、小規模多機能ホームをそれぞれ1ヶ所ずつ展開しています。ここ「グループホーム チェリーホーム」は同法人が最初に開所した事業所であり、横須賀市内でも4番目に開所したの歴史と実績あるグループホームです。立地は京浜急行「馬堀海岸駅」から徒歩5分の3階建てのビルの2階にあります。設備面では、開設当初から浴室にはリフト浴、1階から事業所の入口がある2階へは昇降機が設置されており、令和6年にどちらもリニューアルされ、安全面や使い勝手が改善されています。

●管理者は介護の基本として「オヒタシ」（怒るな・否定するな・助ける・指示する）を掲げ、日頃から職員間でコミュニケーションを密にすることを意識することでチームケアの確立を目指しています。また、管理者は過去に特養で勤務していた経験を生かして、レクリエーション活動にも注力して取り組んでいます。ポッチャ・体操などの運動系と習字・歌・トランプ・ぬりえなどの文化系をバランス良く組み合わせることで脳と身体の活性化を図っています。昨年、横須賀市ロータリークラブ主催のポッチャ大会に3名の利用者が出場したことをかわきりに、今年も大会に参加すべく練習に励んでいます。

●運営推進会議では、活動報告に加えて毎回テーマを変えた勉強会を長年継続して実施しています。身体拘束やハラスメントなど内部研修で取り上げた題材を参加者の民生委員や家族代表に説明し、参考になると好評を得ています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム チェリーホーム
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についてはホームでのスタッフ会議の際に常に取り上げて介護の基本となる「ゆっくり・楽しく・一緒に」を基本にケアに取り組んでいる。他に「お・ひ・た・し」の標語を職員で一緒におこなっている。	法人の「ゆっくり・楽しく・一緒に」から始まる5項目の理念を事業所の理念に位置づけています。理念は会議で常に取り上げるようにし、念頭におきながらケアに取り組んでいます。また「お・ひ・た・し」（怒るな・否定するな・助ける・指示する）の標語も事務所のドアに掲示し、ケアの基本として、全職員に意識づけを行っています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事など積極的に参加することは難しくなっております。今は町内会の行事（盆踊り・お祭りなど）に参加して交流をしていきたいと考えている。近隣に町内会館もできたのでご利用者と一緒に行くことの行事があれば参加したい。	隣に広い公園があり、気候を考慮しながら利用者の気分転換を兼ねて出かけることがあります。また町内会の山車やおみこしが出る夏祭りには、公園に集合するので窓越しから見物しています。横須賀ロータリークラブ主催のポッチャ大会にも、昨年に引き続き参加する予定としています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所の問い合わせなどの際にご家族が認知症の親を抱えて困っているケースが多く見学などに来ていただきその時に相談などを含め今後の入所やホームが満室の際には、他の施設の紹介などサポートを行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括の方、ご家族代表などに参加していただきホームの活動報告、勉強会、意見交換と有意義な時間を共有しサービス向上に活かしている。特に会議の中で勉強会を行い、身体拘束・虐待・ハラスメントなどホームで内部研修として取り上げた題材を民生委員やご家族代表にも説明しホームの中で職員が如何に様々な制限の中での介護支援を行っているかを知らせていただき職員の苦勞を少しでも理解していただき民生委員の方から「苦勞されていることが外観からは、分かりませんが話を聞いて本当に苦勞されていると分かりました。」「これからもご利用者に寄り添う介護をしてください。」とのご意見をいただきました。	運営推進会議は、民生委員、包括支援センター、家族代表などをメンバーとして偶数月に開催しています。現状や活動報告を中心に様々なテーマを取り上げてた勉強会も行っています。勉強会では、身体拘束虐待、ハラスメントなど内部研修で取り上げたテーマを事業所から説明と質疑応答を設けており、参加者からは参考になると好評です。また、民生委員から労いの言葉などもいただけており、励みになっています。運営推進会議の議事録は閲覧できるよう事務所に置かれています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か疑問があれば直ぐに相談できる関係を築き行政の指導の下サービス向上に努めている。	横須賀市の指導鑑査課や生活福祉課などとは、メールや電話のやり取り通して何か疑問が出てくれば直ぐに相談できる関係性を築いています。行政からの助言や参考意見をいただき、サービスの向上に取り組んでいます。	今後の継続
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在。身体拘束をどうしても施行しないとイケない全盲のご利用者様が1名おりご家族様にも十分な説明を納得していただいたのち同意書を作成して期間を区切り拘束をしている。また身体拘束を継続する際には、スタッフ会議において身体拘束廃止委員会を招集して全員の意見を確認したのちご家族に同意していただいている。	全盲の方が入居しており、事前に家族からの理解を得たうえで、夜間ベッドからの転倒事故を防ぐため四点柵を使用しています。身体拘束適正化のための指針に基づき、期間の設定、緊急やむを得ない理由や経過などの記録や、見直しを行い、然るべき手順を踏んで実施しています。また、その際には身体拘束適正化委員会を招集し、全職員の意見を確認した後に、家族にも同意をいただいています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	外部の研修を受け様々な事例から身体拘束＝虐待となることをホーム全体で理解し「身体拘束廃止推進委員会」を設けスタッフ全員で認識し介護に対応している。	内部研修では、外部研修などで知り得た様々な事例や指針などを基に、虐待に該当する対応や虐待によって起こりうる弊害などについて理解を深めています。虐待防止委員会では虐待の有無や、利用者対応で苦慮していることなどを共有しながら、虐待防止に努めています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方でこの制度に該当する方がおられることもあり、制度の重要性も含め、スタッフ会議等で研修を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分に説明し、納得した上で締結するようにしている。この事業を開始して以来、円滑に事業を展開している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に無記名の投票箱を備え付けている。ご家族様の来訪時または電話等で気軽に相談ができる関係を築き常に意見・要望・苦情がある時にはスタッフ会議にて全員で意見をだし改善に向けて検討している。	毎月家族郵送しているお便りにて、利用者の近況報告を行い、利用者の現状を把握していただくようにしています。家族から意見や要望があった際には、書面で残すとともに、スタッフ会議の議題に挙げて話し合った後に、改善に向けて取組んでいます。事業所内に投票箱を設置している他、家族とのコミュニケーションを密にすることで、気兼ねなく意見や要望などを表出できる関係性の構築に努めています。	今後の継続
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の運営、活性化の為、毎月スタッフ会議を開催し、スタッフの意見を尊重し「業務の改善」としての意見や見なおしを行うように努めている。	業務の運営活性化のため、毎月のスタッフ会議では、居室担当者からの利用者報告をはじめ、業務やケアに関することなど様々な議題を設けて話し合いを行っており、スタッフから出た意見や要望を尊重し、業務改善につながる意見は積極的に取り上げるようにして、風通しの良い職場環境作りに努めています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフには、処遇改善手当を全員に支給しキャリアパスの内容について説明し個々のやりがいの持てる配慮をしている。また個人に合わせた業務体制をとり、職員は理念に基づき自由に勤務できるよう配慮している。	全職員に処遇改善手当の支給をはじめ、キャリアパス制度を導入し、職員が意欲や向上心を持てる働ける環境が整備されています。シフト調整などは、ケアマネジャーが担当しており、職員が希望通りの有給や休みを取れるよう調整しながら作成しています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員は個人のスキルの向上になるように施設内の普及研修に繋げ、介護のレベルアップに努めている。資格取得に関してもバックアップする体制を取っている。	新入職員には、介護経験の有無問わず、一定期間のOJTにより、業務の流れや利用者の情報を伝えるとともに実践的な指導も行っています。その後は、年間研修計画に基づき、毎月の職員会議内で研修を実施しています。介護福祉士などの資格取得に関してもバックアップ体制があり、資格取得のための必要経費の補助が行われています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会を通し研修会等に参加していたが、コロナ禍で自由に研修会にも参加できずリモートでの研修にも時間がとれず、外部との交流も難しい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族、担当ケアマネより、詳細にお話を伺い、特に本人が一番困っている事、不安に思っている事を引き出せるように傾聴し、そのことが少しでも解消され、安心を確保できる関係作りに繋げるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際し、ご家族様の不安を払拭する事に時間をかけている。特にご家族様の要望や、意向に対してはよく説明をし信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の初期の段階のニーズを適切に把握した対応を行う。ご本人様やご家族様との面談を通じて適切なケアプランを作成し支援体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症介護の大切な基礎ととらえ、一緒に過ごす事を前提に楽しみや悲しみ、苦しみや痛みを分かち合えるような信頼関係を築き、共に支え合えるような関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告のお便りと写真を送付しており、またご家族様の面会時にはご家族としての心配や不安等を気兼ねなく話して頂き、一緒に利用者を支え合う関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居様がこれまで大切にしてきた生活環境やご家族、知人を理解し、いつでも気兼ねなく面会できる雰囲気や居室内でゆっくりと過ごしていただけるようにしている。	現在はコロナ禍で生じた面会制限を解除し、いつでも気兼ねなく面会できる状況になっています。家族が孫・ひ孫を連れて来られる方もいます。また、友人・知人の面会や、電話で話をされる方もおり、個々に応じて馴染みの人との関係性を継続できるよう支援しています。家族が来訪された際に、実家で過ごされて戻ってくる方もいます。	今後の継続
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームで生活を共になさるに当たり今までホームにいらっしゃった方々との良い関係が築かれるように日々の生活での関わり合いを大切にし時には座る席を交換したりして支援させていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移るような場合は、今後の生活に支障がないように、ホームでの生活状況を通知・共有して頂き、ご本人・ご家族様が問題に遭遇した場合は、全面的に支援する。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	重度の認知症の利用者からの思いや意向の把握は大変困難苦慮しておりますがご家族様などからの情報や入居前の生活を考慮し意向の把握に努めている。またスタッフが4カ月毎一人のご利用者を担当しその思いを考え気持ちシートを作成して会議で発表している。	事業所では、4ヶ月ごとの持ち回りで居室担当制を設け、交代時に担当した職員が各々の視点で汲み取った、利用者の不安・思い・希望などを「気持ちシート」（センター方式のC1-2）を作成し、情報を共有するとともに蓄積していくことで、思いや意向の汲み取りにつなげています。食に関しては、誕生日会のおやつで実現させるなど、できるだけ要望を叶えられるよう支援しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様、個々の歴史や、経過を把握する事は重要である為、ご家族様の協力を得るなどし、把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援の観点からも、ご利用者様の個々について把握する事は大切である為、日々の会話・行動・癖・心身の状態を注意深く観察する努力を行っている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	4カ月毎に交代して担当するご利用者に関して月1回行うスタッフ会議のカンファレンスで意見を発表してもらうことと4カ月に1回作成する気持ちシートも反映して介護計画を作成している。	、4ヶ月ごとの持ち回りで居室担当制を設け、交代時に担当した職員が各々の視点で汲み取った、利用者の不安・思い・希望などを「気持ちシート」（センター方式のC1-2）を作成しています。スタッフ会議時のケアカンファレンスでは、居室担当者から利用者の状況報告を行い、情報共有を兼ねてモニタリングを実施しています。「気持ちシート」の情報を蓄積していくことで、利用者のニーズに応じた介護計画の作成につなげています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎日、表情の変化・言葉・様子などの確に個別の介護日誌に記入し、スタッフが情報を共有すると共に、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の要望により一時帰宅、外食の要望があれば、臨機応変に対応している。急変時や医療面でのサポートが必要な場合には、敏速な対応ができる体制をととのえている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会には加入しているが町内のお祭りや盆踊り等には参加できていない。地域包括支援センターや地域のボランティア等、必要に応じて支援、協力頂ける体制作りをしていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様全員が事業所のかかりつけ医の受診を受けている。今年の3月から主治医の交代がありました。長年訪問診療をしてくれた院長先生が体力的に限界を感じて訪問診療の部門を閉鎖しました。次の訪問医師を紹介していただきご家族様にも同意していただき現在は新しい訪問診療を月2回の定期往診と24時間オンコールによる体制をとっている。訪問歯科の往診も受診している。	長年訪問診療をお願いしていた協力医療機関が一身上の都合により、訪問診療が困難となった関係で、昨年3月から新規の協力医療機関に代わり、全利用者が新規の医療機関から月2回の往診を受診しています。訪問看護師は毎週1回来て利用者の健康管理を行っています。訪問歯科は毎月1回の往診があり、希望者のみ契約しての受診となっています。	今後の継続
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の生活の中から個別の健康管理を実施している。そのうえで看護師と情報を共有している。医療連携により受診の可否等の判断を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と密に連絡を取り合い退院後に向けてご入居者様のニーズに応じた継続的なケアが提供出来るように努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族様と早い段階から話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明し、重度の利用者に対しては、主治医の指導の下で適切に対応し、終末期に向けてご家族様との話し合いをその都度設け介護等の対応方針について、介護職員・看護師、主治医を含めたチームで対応するようにしている。	運営規定第18条に「重度化した場合の対応に係る指針」、同第20条に「看取りに関する指針」が明文化され、入居時に重度化や終末期の指針を説明し、同意書を取り交わしています。入居後、実際に利用者が重度化した場合には、協力医・家族・事業所で話し合い、家族の希望に沿ったケアを提供しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の整備や職員が急変や緊急時に対応できるように勉強会を行い常に新しい情報を共有する体制を構築している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPに準ずる訓練を机上と実際の避難訓練を年2回以上利用者にも参加してもらい行っている。災害時には、指定避難場所も職員が認識してる。	避難訓練は年2階、日中帯と夜間帯の発生を想定して、利用者にも参加いただながら実施しています。海には近いものの、ビル自体が高い場所にあることから、津波の際は留まることを指導されています。備蓄品は1週間分ほどの水や食糧、衛生用品、懐中電灯の他、石油ストーブ、カセットコンロなども準備され停電時にも備えています。	今後の継続
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しプライバシーが守れるように言葉かけは注意している。慣れ親しんだ関係になっても「○○ちゃん」等の呼び方は基本的に禁止として職員に周知している。	法人理念の5項目の中に「人としての尊厳を大切にします」と掲げられており、利用者と接するうえで一人ひとりの人間性を受容するとともに、プライバシーを侵害することのないよう、日頃から否定的な声かけや排泄・入浴支援時にもひざ掛けを使用するなど留意しています。また、「振り返りシート」を活用しての自己点検も行っています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重したケアを心がけている。日常生活の中で選択肢を設けご利用者様が意思決定できる環境を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースやリズムに合わせ、やりたいこと、希望に沿った支援を行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容師を2ヶ月に1度利用しご本人様の希望に沿った髪型にしてもらうなど、その人らしい身だしなみやお洒落の為の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の誤嚥に気を付けながら食事を楽しく召し上がられる様、雰囲気配膳前からつくる様心がけている。食べ易いように調理、盛り付けを食器から気を付けている。食事介助の必要なご利用者については、経験のある職員から指導を受け誰でも介助のできる支援を行っている。	食材・メニューは業者に委託し、調理に必要な時間を介護ケアの時間の充実に振り向けています。食事を楽しく召し上がられるよう雰囲気作りに気を配っています。行事食やおやつ作りなどを利用者と一緒にしています。食器拭きなど利用者の状況に応じて手伝いをお願いします。	今後の継続
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様1人1人の食事・水分の1日の摂取を把握し、介護日誌に記入し、バランスの良い食事と適切な量の水分が摂取出来るように支援している。重度化と共に、嚥下が困難になっている方には、主治医の指導の下、栄養補助剤を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご入居者様の口腔衛生を保つため歯磨き支援や義歯洗浄のケアを行っている。必要に応じて歯科医師との連携をはかっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の利用者の排泄等を排泄チェック表に記録し排泄パターンの把握に努め、さりげない声かけ、トイレ誘導を行い、不快なく排泄出来るように支援している。	1人ひとりの排泄状況を排泄チェック表に記録しています。排泄チェック表に基づき、タイミングを見計らった声かけや、定時誘導により、トイレでの排泄につなげています。日中は、全利用者がトイレで排泄していただくことを基本とし、夜間は2人のみオムツ対応を行っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便を促す為、水分補給、繊維食品及び運動等、毎日の生活の中で継続的に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間が楽しくリラックス出来る時間であるようにスタッフと1対1で気兼ねなく会話など楽しみながら入浴出来るように工夫している。体の不自由なご利用者には入浴時の介助リフトが設備されており安全に入浴を行えると同時に職員の腰の負担を軽減することもできるのでメリットは大きいです。	介助用リフトが一昨年にリニューアルされ、操作性などが良くなりました。介助リフトは職員の身体的負担の軽減のみならず、重度化しても入浴できるというメリットがあり、開所時から重宝して利用しています。リラックスしていただけるよう、会話が弾むような話題を提供しながら入浴支援を行っています。	今後の継続	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が安眠できる様に日中の活動量や個々の生活リズムに合わせて休息やサポートをしている。寝具や室温の調整を行い安心して眠れる環境を提供している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に職員はある程度掌握している尚、新しく処方される際には、主治医または薬剤師より解説を受けている。日常の変化や状況については、細部にわたり看護師、医師に報告するよう努力している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのご利用者様の特技、趣味を把握することで、生き甲斐に繋がるよう支援している。重度の認知症の方には色々な事を提供し、反応を見ながら楽しむことを見つけていけるように努めている。			
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの隣には公園もあり気分転換も兼ねて散歩に行くことが出来る。歩行については、不安定なご利用者様には車椅子にのってもらい外出をしてもらう。	事業所の隣に広い公園があり、気候の良い時期には、気分転換も兼ねて散歩に出かけています。桜の季節には、同法人のデイサービスの車を借りて花見に出かけます。2月末に開催されるポッチャ大会に利用者から選ばれた3名の選手とともに他の利用者は応援を兼ねての外出行事となります。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、ご利用者が個人で金銭をお持ちになる事は、管理することが出来ないこともありご家族様には説明して持ち帰っていただいている。但しお財布に少額でもお金が入っていないと不穏になられる方もいるので決まった金額を渡して持つ事で不安要素も軽減できると考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に電話をすることで、安心されるご利用者様にはダイヤルを支援すれば会話が出来るので、状況を判断し、ご家族様に協力していただき実施している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく居心地の良い空間を常に意識し、皆さんが日中過ごす談話室は常に季節感（節分、ひな祭り、端午の節句・クリスマスなど）を味わえるようにスタッフが工夫し手作りの飾り付けで皆さんに喜んで貰っている。またご利用者の皆さんも飾りを作るのをお手伝いしてくれて楽しい時間を過ごされています。	リビング・ダイニング（談話室）は明るく居心地の良い空間を常に意識しつつ、季節感を味わえるよう職員が工夫を凝らした手作りのものを飾っています。レクリエーションも、体操やボッチャのスポーツ系と折り紙・ぬりえなど文化系をバランスよく取り入れることで、身体機能の維持と脳の活性化につなげています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室の脇には、気軽に腰をかけられるソファが設けてあるので、自由に利用し思い思いに過ごせるような居場所になっている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物、写真や気に入った物やテレビ、ラジカセ等をご家族様から持ち込んでもらいご利用者様それぞれの好みに応じた居室を作り、居心地良く過ごせるよう支援している。	入居時には自宅で使用されていた家具や寝具、調度品を持ち込んでいただくことを勧めています。使い慣れた物や思い出の品を身の回りに置くことで本人の安心につながることから、家具や寝具類の他にも、写真、アルバム、テレビ、ラジカセなどを持ち込まれている方もいます。家具などの配置については、家族と利用者で相談しながら決めていただいています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不自由な方がトイレ・居室などへご自身で移動する際には、必ずスタッフがその方について見守り介助を行うが、出来るだけ自立した生活が送れるようにスタッフも常に良いケアを話し合い成果を上げている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム
チェリーホーム

作成日

令和8年1月28日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員の介護に対するスキルに個々の差がある。	全職員が介護に対するスキルアップに意欲的に取り組めるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・未資格の職員もいるので資格習得のサポートは行っている。 ・内部研修において個々のレベルがある程度把握できているので、繰り返しの研修を行い、理解できるよう皆で協力していく。 	6ヶ月
2	7	全てのご利用者様に対して「人間尊重」を基盤とした接遇マナーで接することができるようにする。	私たち職員が接遇マナーを守ることで、全てのご利用者様が「人として大切にされている」と感じることができる。	ケアについて「お・ひ・た・し」をスローガンとして職員の意思統一を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・おこらない ・ひていしない ・たすける ・しえんする 	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。